



あなたは下の文章を
何秒で読めますか？

読み切りスピード測定

ストップウォッチを用意して読み始めから終わりまでの時間を測定してみてください。

「なんだらう」とのぞいてみると、「ぴきのちいさいかめをぼうでついであそんでいるのです。かめはいっしょうけんめいにげようとするのですが、まちぶせてひっくりかえしたり、あわてるのをおもしろがってはやしたてます。たろうはかわいそうになって、こえをかけたよ。いきものには、それぞれにいきるところがあるんだよ。うみにかえしてあげなさい。」

「こんなひもあるのかなあ。」

たろうはとぼとぼとまべをあるいていえにかえろうとしました。すると、こどもたちがわになつてさわいでいるところにくわしました。

「なんだらう」とのぞいてみると、「ぴきのちいさいかめをぼうでついであそんでいるのです。かめはいっしょうけんめいにげようとするのですが、まちぶせてひっくりかえしたり、あわてるのをおもしろがってはやしたてます。たろうはかわいそうになって、こえをかけたよ。いきものには、それぞれにいきるところがあるんだよ。うみにかえしてあげなさい。」

「なんだ、りょうしのたろうさんじゃなにか。まいにちうみのいきものをつかまえているのはだれなのかな。」

なるほどそのとおりです。

「これはまいったな。いきものいのちをいただいてくらしているのはおまえのいうとおりだ。ここにおかぬがあるからおじさんにそのかめをうっておくれ。これであいいかね。」

ここにこしているたろうのことはこどもたちもいかえさせません。「わかったよ。こんどあったらまたかかっておくれよ。」

こうしてたろうは、かめをたすけてやりました。

「さあ、はややおうちへおかえり。」

かめはたろうをみつめ、そのままうみまではしると、なみにきえていきました。

「たろうさん、ありがと」といってこえがきこえたような感じがしましたが、それより「かめってこんなにはやくはしるんだなあ」というのがふしぎで、しぜんにえがおになりました。

つぎのひも、そのつぎのひも、おどろくほどのたいりょうでした。まるでさかなたがさきをあらそってたろうのつりざおにかかろうとしているみたいでした。

問題の文章は978字あります

この文字数の一般的スピードは92~183秒

速読2ヵ月経験者だと30~46秒程度で読めます。

秒

磯一郎の100万人の速読コンセプト

『速読力を鍛えて学力を向上させたい』



100万人の速読とは？

様々な速読法がありますが、本速読法は最も人間に優しい読書法であると自負しております。なぜならば、人間が元々持っている能力を活用し、その能力に適切な負荷をかけることで生じる脳の可塑性を利用しているからです。まさに速読はスポーツの負荷のかけ方と同じなのです。スポーツの名監督は、その選手の持っている能力に適切な負荷をかけることで確実に能力をUPさせます。

速読のメリット

『今の5~6倍の速さで、小説を読んだり教科書が読めれば...』と思いませんか？この速さであれば、ちょっとした小説ならば1冊30分程度で読めます。1日1冊が、夢ではありません。また学習では、定期テスト範囲の教科書であれば各10分もあれば読めます。そして繰り返し読むことが可能になります。つまり学習効率を格段にUPさせることができるだけではなく、何回も繰り返し読むことで教科書の記憶学習ができてしまうのです。またテスト時、読む時間が大幅に削減されるので、余った時間で問題をじっくり解くことや、見直しの時間に充てるのが可能になるのです。



MRI検査による実証実験

都立大学との共同実験では、普通の読み・速さを持つ学生に、1回1時間、たった4回の講習で速読力を身に付けさせ、その前後でf-MRIを用いた速読時の脳内反応の変化を検査する実験をしています。被験者を短時間で速読力を身に付けさせることが可能な速読法でなければ検査ができない世界初の実験なのです。世界初の速読実験となっています。他に速読時の脳内変化を検証した論文は皆無です。また、多くの受講生からは、速読力が簡単に身に付いてしまうので、どうやって速読を継続させるかをよく質問を受けるほどです。この読み方を『読書に！』『学習に！』習慣化させるために開発されたのが『100万人の速読』です。また、本速読法は英語・中国語・スリランカ語(シンハラ語)と多言語での効果効用が確認されています。読むことは、どの国の言語でも文字が異なるだけで、脳の使い方は同じなのです。今回、英語学習に焦点を置き『長文問題の読み速度UP法』や『単語の暗記法』等のコンテンツも提供しています。あなたの英語学習も強力にサポートいたします。



『100万人の速読』開発者
磯 一郎 先生

磯 一郎 先生の略歴

1977年	日本大学理工学部研究科職員	2012年	一般社団法人「こどものためのプラットフォーム」設立
1980年	速読指導開始	2013年	佐野日本大学中等教育学校にて速読指導開始
2000年	速読ソフト開発スタート	2018年	『親子でかんたん速読ドリル』出版
2008年	速読ソフト販売スタート	2019年	首都大学と正式に産学公連携を締結
2009年	東京学芸大学との共同研究開始		(2020年より首都大学が都立大学に名称が変更)
2012年	首都大学東京との共同研究開始	2020年	共同研究の成果が磁気共鳴医学会で発表
2012年	首都大学東京との共同研究開始		



著書：『親子でかんたん速読ドリル』
日本能率協会マネジメントセンター

100万人の速読体験談



問題を解く時間が増えた

『100万人の速読』をやったのは、テストで速く読めるので、問題を解く時間が増え、前にはよくあった、うっかりミスがなくなったことです。この前、試しに『100万人の速読』をする前の速さで本を読んでみたら、まるで紙芝居を見ているように、頭の中で絵と声がとてもゆっくり流れていくのを感じました。最近、気に入った本を探るために本屋さんに行くのが楽しみになってきました。今まで読まなかった難しい本にも挑戦したいと思っています。

小6 A.Hくん

『子どもたちにたくさんの本を読ませよう！』をスローガンにスタートした『100万人の速読』は、もともと人間の持っている無意識領域の能力を活性化させる学習法です。

国語の成績がアップ 教科書も記憶できるように！

ぼくは全く、本を読まなかったのですが、中2で『100万人の速読』の訓練を始めてから速く本が読めるようになり、いろんな分野の本をたくさん読むようになりました。国語の成績がアップしたのはもちろんですが、今では社会の教科書も7回読むと記憶できるようになりました。文章を書けるようになって小論文も得意になり、また数学も問題の内容をしっかりと読み取れるようになった。

中3 K.Kくん

テストの解答時間に 余裕ができて点数もアップ

私は元々読むことが苦手だったので、共通テストの国語はいつも解答時間が足らず、頑張ってもなかなか100点を越えることが出来ませんでした。そこで塾の先生からのススメで『100万人の速読』で勉強するようにしました。そのおかげで読書スピードがとつても速くなり、共通テストの国語解答時間が余るようになりました。点数も過去問で140点を越えるようになりました。

高3 R.Yさん

本を読むことが好きになりました

中1まではほとんど本を読まなかったのですが、『100万人の速読』を身につけてから、本を読むことが大好きになりました。『100万人の速読』をして変わったと思うのは暗記の力です。社会の暗記が苦手でしたが、社会の教科書を『100万人の速読』で繰り返し読むと、重要事項が自然と覚えられるようになり、歴史の時代の流れがつかめるようになりました。また、それらの覚えたことが、何日たっても忘れないことに驚いています。

中2 W.Oさん